

事故を防ぐために

① 使用する際は、取扱説明書をよく読み、空気が少ないか、ベルトが外れていないかなどを確認し、正しく使いましょう

空気が少ないと、首浮き輪が沈みやすくなります。また、ベルトを外すと、口や鼻が水に浸かったり、首浮き輪が外れたりすることがあります。

首浮き輪を使用する際は、取扱説明書をよく読み、空気量が少なくないか、漏れていないか、ベルトが外れていないか、あごが乗っているかなどを確認してから使いましょう。

② 使用中は子どもから目を離さないようにしましょう

親と一緒に入浴中、親が洗髪や兄弟の世話をするため目を離した2、3分の間に溺水などの事故が発生しています。保護者が一緒に入浴する際、洗髪したり他の子どもを洗ったりするなど、子どもから目を離すような場面では絶対に使用しないようにしましょう。



●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。
<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。
<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL.042(758)3165 ●2012年11月発行

デザイン=独立行政法人国民生活センター商品テスト部

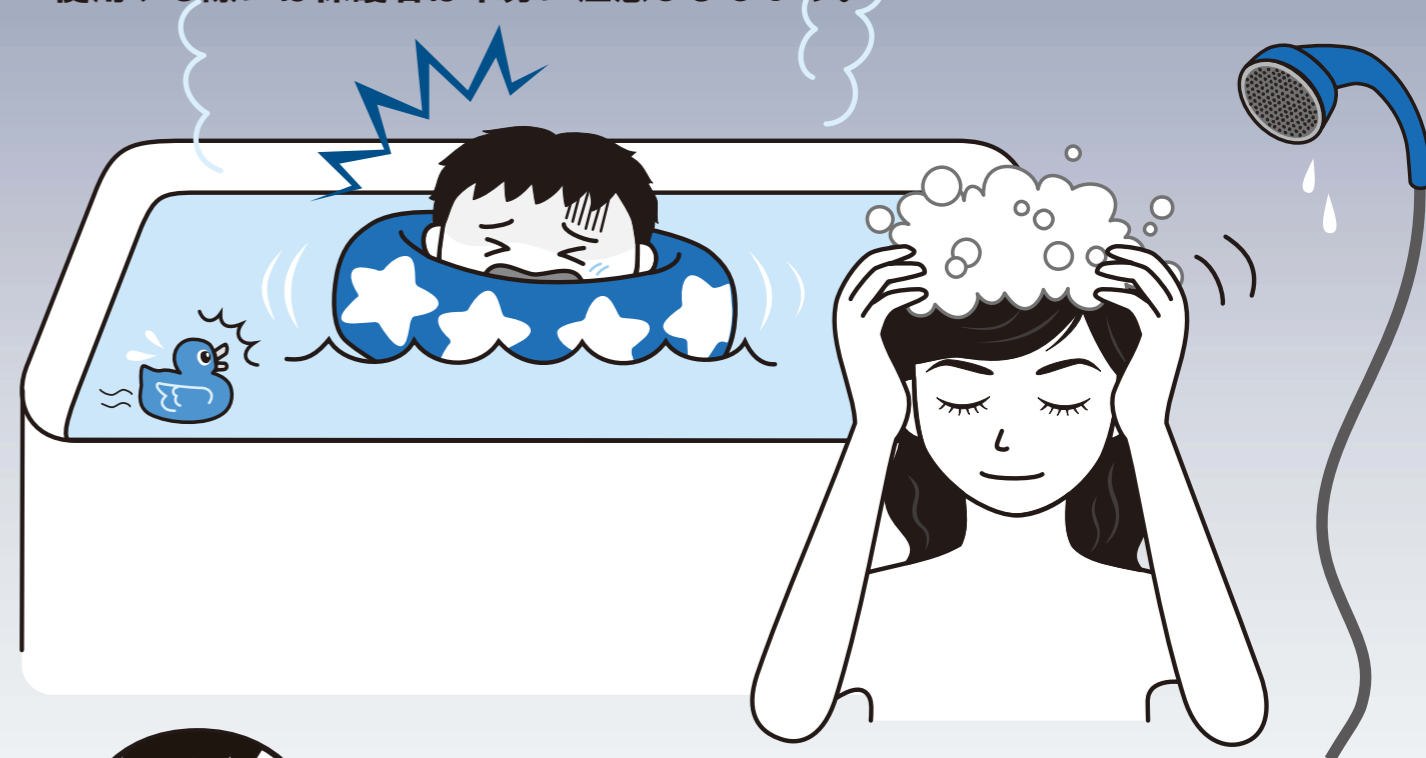
くらしの危険 Number 310

首かけ式乳幼児用浮き輪の事故

首かけ式の乳幼児用浮き輪（首浮き輪）を着けて乳幼児が入浴していたところ溺水したという事故情報が寄せられました。いずれの事故も、保護者と一緒に入浴中、保護者が少しの間、目を離したときに起きています。

首浮き輪は、乳幼児が水に親しむこと等を目的として販売されている商品ですが、使い方によっては溺水などの事故を招くおそれがあります。

使用する際には保護者は十分に注意しましょう。



乳幼児用首浮き輪とは

乳幼児用首浮き輪は、C字型の開口部を後ろにして乳幼児の首に取り付け、上下のベルトをはめて使用する商品です。

取扱説明書やインターネット販売店の広告には、「プレスイミング（乳幼児が水に親しむこと）で使用する」や、保護者も一緒に入浴し、身体を洗う場面でも使用できる、などどうたわられています。

こんな事故が起きています

ケース 1

親が乳児（4カ月）と幼児の3人で入浴した際、浴槽で首浮き輪を着けている乳児から少しの間目を離し、幼児の世話をを行った。その後で乳児を見ると、顔面が蒼白で唇が紫色になっており、呼吸が停止した。応急処置をしたところ、顔面と呼吸が回復し、その後救急搬送された。



ケース 2

親が入浴時に、首浮き輪を乳児（6カ月）に着けて浴槽に入れ、長くて2～3分間、目を離して気付くと、製品のベルトが外れ、乳児の顔が浮き輪から下がって鼻の下まで湯に浸かっていた。すぐに抱き上げて2回水を吐かせた後、救急搬送した。入浴時にはいつも首浮き輪を使用しており、製品の上下2カ所にあるベルトのうち下1カ所を留めていなかった。

ケース 3

親が乳児（4カ月）に首浮き輪を着けて浴槽に入れたら、首浮き輪の上にあった乳児のあごが下がった状態となったため、あごを首浮き輪の穴から上に上げた。その後、親が1～2分の間、シャワーで自分の髪を濡らし浴槽内を見ると、首浮き輪が外れて乳児がうつぶせで浮いていた。すぐに乳児を抱き上げて手当をすると、咳をして泣き出した。事故後に首浮き輪を水に浸すとわずかに空気が漏れた。

ケース 4

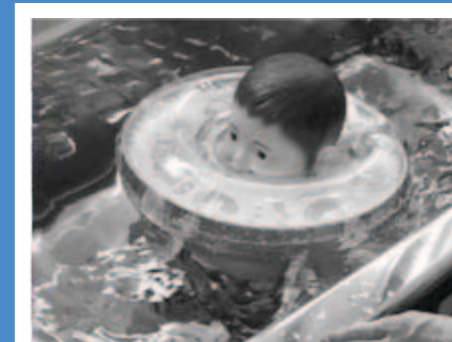
親が乳児（1カ月）に首浮き輪を着けて浴槽に入れていた際、1分足らずの間、目を離すと、乳児が首浮き輪から外れて溺れていた。すぐに抱き上げて背中を叩くと水を吐き、泣き出した。

首浮き輪の危険性をテストしました

首浮き輪の代表的な商品を、取扱説明書に記載された方法で6～9カ月の平均的な女児を模した乳児ダミーに装着し、空気量とベルトの有無を変えながら、どのような危険性が考えられるかテストしました。

空気が入っている状態

首浮き輪に空気が入っている状態では、通常、顔が水中に沈んだり、首浮き輪が外れたりすることはありませんでした。しかし、乳児ダミーを首浮き輪の後側に押し付けるように移動させると、あごが首浮き輪から落ちるようになり、この状態で上下にゆすると、鼻の近くまで水面がくることがありました。



あごが首浮き輪から落ちてしまうと、鼻の近くまで水面が来るがありました

空気が少ない状態

空気が少ない場合、首浮き輪がV字に沈み込みやすくなり、顔の周りに水がたまりやすくなることがありました。また、乳児ダミーを前傾にすると、首浮き輪が折れ曲がってしまい、口や鼻がふさがれてしまうことがありました。

下ベルトを外した場合、上下にゆすると鼻まで浸かってしまうことがあり、上下両方のベルトを外した場合には、口や鼻まで水に浸かったり、首浮き輪が外れて乳児ダミーが水没することがありました。



空気が少ない場合、首浮き輪がV字型に沈みやすくなりました



下ベルトを外した場合、ゆすると顔まで浸かることができました

表示について

- ・商品の表示を調べたところ、「プレスイミング（乳幼児が水に親しむことをいい、一般の水泳ではありません）で使用する」旨の表示や「使用中は目を離さない」旨の警告表示がみられました。
- ・首浮き輪を販売しているインターネット販売店の表示を調べたところ、保護者も一緒に入浴し、身体を洗う場面でも使用できることをうたった表示がみられました。